

#### 四、ミキ先生とともに生きて

### おかあさんと私

大 下 昭 子

昭和三十二年の夏、里の母が校長先生のご友人の広瀬キシノ先生に、卒業後の進路の事で相談しましたところ、武田学園で学ばせたらどうかと言って下さり、三十三年四月入学式、入寮式、新任の西岡幸子先生担任、副担任森吉政子先生、クラスメート四十一名、寮生の皆さん、淋しさは一日でどこかに吹き飛んでいきました。忙しい一日が始まる。六時起床、朝会、掃除、朝食の支度、炊事当番の人は、朝三時三十分起床、八升炊きの御飯の味、

特におこげの味は今でも忘れる事はできません。真心こもった食前の言葉

箸とらば、雨、土、御世の、御恵み、父母や、師匠の恩を、忘るな、合掌

日常生活の中から多くを学ばせていただき、校訓に一步でも近づける人間になろうと、心して一生懸命努力を重ね、泣いたり笑ったり楽しい二年はあつと云う間に過ぎて、私は卒業後も学園でお世話になりました。

初任給をいただき、先生にお礼を申し上げると半分は親元に送りなさい、二か月目からは、貯金をするようにと御指導いただきました。確かその時のお給料は一、〇〇〇円、一年間で四千八百円貯金、そのお金で、上下の服を買って職員旅行に参加させていただきました、とても先生に喜んでいただきました。

三十五年の四月から、先生の身のお世話と学校と寮の売店、目まぐるしい毎日の中で、校長先生と寝食を共にさせていただける自分は本当に幸せでした。肩がこるから、地のままでやれば良いと言って下さり、お言葉に甘えさせていただきました。

先生に良く叱られましたねといつも話すものですから、昨年の夏ごろ、あんな達は、叱られた時の事しか話さんが、良い日もあつたでしょうがとおっしゃるので、先生、叱っていただいたおかげで、今日があるんです。早くお元氣になられて、まだどしどし叱って下さいと申しますと、ほうか、ほうか、頑張るといつものお優しい笑顔を見せて下さいました。本当に安らかな毎日でした。いつの日でしたか、先生、家でヒヨコが口を開けて待っていますから帰らせていただきます。また、明日出来るだけ早くこさせていただけますとおやすみの挨拶をしておりましたら、ちよつとここに来て座りなさいとおっしゃるので、ベットのそばにまいりますと、早く来ると言って一つもあてくそにならない、来た時がほんとじゃとおっしゃって……待つていて下さるお氣持、本当にもつたいなく有難く

心にいただいて帰りました。三十五年の頃の思い出を少し書いて見ます。

現在の広島市民病院の所に校舎がありました頃、根之谷川添いを自転車で戸田齒科医院に送迎させていたでおりました。ある日お巡りさんが、二人乗りは危ないですよとおっしゃりますと、片手をさっと上げられ、すみません、病人ですからとご自分でおっしゃられた、のどかなひととき、それから間もなくして大西八郎先生が、自転車の二人乗りだけは、もうおやめ下さいとおっしゃるので、止めとこうとおっしゃったような気がします。

またある年の暮、「お正月には、ブリを一切れ買って雑煮に入れて食べようか」とおっしゃるので、早速ポール紙をリヤカーに乗せ売りに行き、いただいた参百円のお金で一切れ買って召し上がっていただけた嬉しさ今でもはつきり覚えています。

それから年月が流れ四十年の秋ごろ、校長室に來なさいと突然おっしゃるので、また、お小言かなと伺いますと、「大下にお嫁にほしいと云われるのだけれど、あんたはどう思うか」「私のような者でもよろしいのでしょうか」と申しますと、「そうよ、つとまりあすまあのう、まあ大下のおかあさんは、とっても賢い人だから、言われる事を良く聞き、なさる事を見て習えば、あんたでもつとまるだろうよ」、里の両親には、一円なりとも心配かけないようにと、着る物から履物の心配までしていただき、諸先生方に、着物の仕立の配慮までしていただき、ご恩返しのできないまま、先生のおうちからお嫁に行きました。

平成四年三月重間の姉から突然、先生のご入院を知らされ、ご無事を祈りながらもお顔を見るまでは心配で心配で、定木さんが、良く来てくれたネ頼むよとおっしゃって下さり、ほっと致しました。

学長先生、奥様、諸先生、多くの皆様の心温まる励ましのお言葉をいただきながら、おかあさんと過ごさせてい

ただいた一年九か月、限りなき深いご縁をいただき、一生大切にさせていただくとともに、感謝の日暮しをさせていただきます。長い間ありがとうございました。どうぞおかあさん、安らかにお休み下さいませ。